

# View from Down Under

ハイランド真理子

## 最新のニュースから

コーフィールドカップのことを書く前に、どうしても書かなければならないニュースがある。ひとつは、ついにシドニーの二つのジョッキークラブ、オーストラリアンジョッキークラブ(AJC)とシドニーターフクラブ(STC)が併合されることになったこと。ビッグニュースなので、別の機会に詳しく報告したい。そしてもうひとつは、クインズランドをベースにするスタージョッキーで、コックスプレートやメルボルンカップの有力馬シュートアウトに乗ることになっていた、スター・カツィディス騎手が10月19日に自宅で死亡しているのが発見されたこと。10月19日の時点では、その死亡原因などは発表されていない。彼は2008年にドラッグ検査で陽性になり9カ月の騎乗停止になったが、近年はその問題から立ち直り、クインズランド州のリーディングジョッキーになっていた。

## トウカイトリックは12着も

さて、本題のコーフィールドカップ。私はレース当日に日本からオーストラリアに戻り、トウカイトリックの馬房に直行した。これからプレ・パレードリングに行くところだということで、チーム・トウカイのメンバーが全員集まっていた。「かなり馬場が悪いようだが、外枠を引いたのでそれが辛いのかも知れない」と野中賢二調教師。「少し前に行くかも知れませんが」と、戦略を教えてもらった。実際には、思った以上のひどい馬場になって、トウカイトリックは何度もバ

ランスを崩し、立ち直った時には追い上げる契機を失ってしまっていた。レース後藤田伸二騎手は、「今回は休み明け、本番はメルボルンカップだから。これでいい」と話してくれた。野中調教師も「メルボルンカップの方が得意の距離。今回は12着だったが、馬場などのコンディションを考えるとまあまあ結果だったと思います」との見解だった。

## NZ産馬が上位独占

今年のコーフィールドカップは、1着から3着までをニュージーランド(以下NZ)産馬が占めた。「そうか、NZの馬は雨に強いから」とアバウトな意見を言う人もいたし、雨だから本命にはキツイレースだったという、これまたアバウトな意見もあった。

優勝馬は、ゲイ・ウォーターハウス調教師が管理するデスカラード。前走のターンブルステークスでは、16頭立ての14着と惨敗で、このレースでは勝ちそうになかった。したがって、レース後も「たまたま勝っただけ。メルボルンカップでは勝てない」との評価が出ている。この日のデスカラードには52.5キロでクリス・マンス騎手が騎乗。レース後の発表によれば、本番はゲイ・ウォーターハウス厩舎の専属騎手であるナシュ・ロウィラー騎手に乗り替わる可能性があるというが、結論はまだ出されていない。デスカラードは、NZプレミアイヤリングセールにウインザーパークスタッドから上場されたが主取になり、デビュー後、ゲイ・ウォーターハウス調教師のクライア

ントに見いだされて買われた。現在14戦して4勝、5回入着。今回で総取得賞金は200万ドルを超えた。2着馬はNZからの遠征馬ハリスツイード。前走のパート・カミングス・ステークス(2500m)で勝って弾みをつけた。昨年のメルボルンカップで5着に入っており、今回も上位の人気になることが予想される。そして3着は、11月また来口すると噂のあるクレイグ・ウィリアムス騎手が乗ったモナココンスル。2000年にホーリックスの息子ブルーでメルボルンカップを勝ち、現在メルボルンに厩舎を持つNZ出身のマイク・モロニー調教師の管理馬である。モナココンスルは、昨年のVRCダービーで優勝し、今年のAJCダービーでも3着となっている。しかし、前走のターンブルステークスでは12着。今回の優勝馬デスカラードの14着よりは良かったが、調子はもうひとつであった。だんだん調子が良くなったのかそれとも、重馬場が良かったのか、いずれにしても、3頭とも11月2日のメルボルンカップに出走するので、その決着はもう目の前である。なお、このレースで1着と3着になった馬の父馬は、ハイシャパラル。今年のコックスプレートで優勝したソーユーシンの父でもある。

## メルボルンカップに向けて

今回の結果をトウカイトリック陣営が、このレースを本番のメルボルンカップのための調整とみているのと同じく、かなりの数の馬が同じような位置づけをしている。その中で、昨年のメルボルンカップの優勝馬ショッキングが、あの重馬場でしかも57キロを背負って4着に入っているというのは、やはりメルボルンカップ連覇の可能性を語っているのではないだろうか。また、今回全滅だった「あの」パート・カミングス調教師の馬たち、フェイントパーフェウムやダリアーナはどうなのだろう。フェイントパーフェウムに乗ったグレン・ボス騎手は、敗因はプリンカーと語り、メルボルンカップの本番では必ず結果を出すと豪語した。そして、トウカイトリック以外の外国勢はというと、ダミアン・オリバー騎手が乗ったルカ・クマーニ調教師のマニガーは5着、香港から遠征したミスターメディチも6着と健闘した。コーフィールドカップでの結果がメルボルンカップとどう重なるのか……。当日の天候や馬場状態にもよるかも知れないが、結果は問もなく分かる。GO TOKAI TRICK!



大雨のため開催が危ぶまれたコーフィールドカップ。優勝したのは伏兵デスカラード



チーム・トウカイ(向かって左から、柿崎裕望装蹄師、野中賢二調教師、大平俊幸厩務員、根岸孝至調教助手、そして、田中敬太レーシングマネージャー)